# よそものわかものばかもの

## ～松江駅長奮闘記

＜4＞

# 駅ナカコンサート実現

山陰は雨の多いところだ。一日のうちに天候がコロコロ変わり、天気予報もあまり当たらないというのも、神戸出身の私にとっては非常に新鮮に映る。

ただ、特に冬場の曇天はどこかしら、暗い気持ちにならざるを得ない。やっと長い冬が明け、過ごしやすく、夕日もすばらしい春がやってきたと思ったらまた、すぐそこに梅雨というじめじめした季節が控えている。

街や駅を明るくにぎやかにしたい。県外からも、たくさんのお客さまにお越しいただきたい―。そう考えるとき、天候不順は高いハードルになる。

山陰の四季のうつろいを一巡り、私が感じるかどうかというころ、期せずして出合ったのが、浜田真理子さんが歌う「水の都に雨が降る」という曲であった。

穏やかで品のある曲調の中に、この地に根付いた歴史や文化、風土など、この街の魅力を誇らしく伝えるような意地や力強さを感じる。それでいてコテコテの演歌のような古くささや田舎くささもない。

私は、JR松江駅でこの曲を雨の日にかけるだけでなく、曲のお披露目と、今後の駅や街のにぎわいづくりの拠点として、駅構内の「待合室」と呼ばれていた場所を「広場」に改装することに決めた。

## 弱みを強みに

ある種、実験的な試みだ。あまりお金はかけられない。壁画の下にある溝にフタをしてステージにした。というか、安全のためにフタをしたらたまたま、（学生時代に芸人として活動した）私にはステージに見えた、というのが正確な表現だ。

2012年5月29日夕方。浜田真理子さん、安来のおじ、そして世界的に有名なギタリストの山本恭司さんにもお越しいただいて「駅ナカコンサート」を開催した。百人を超える人だかりができ、報道もされて、この広場は一躍有名になった。程なく、一般公募により、この場所は「縁結びの広場」と名づけられた。

「これ、本当に、駅の中なんですよね」。当日、松江駅の古株の社員がつぶやくのが聞こえた。観衆には笑みがあふれていた。

「ここから、何か、生まれるかもしれない。しかも、松江らしい、上品で穏やかな形で」。私はそう確信した。

（JR松江駅長・内山興）

＝第2、4月曜掲載＝

新設されたステージで松江を題材にした曲を披露するミュージシャンたち＝昨年5月29日、松江市朝日町、JR松江駅